



発行所 長野県大町市大町3887番地 大町市老人クラブ連合会 電話 (0261) 22-0420

## 生活支援活動の強化を目指して

大町市社会福祉協議会 会長 奥村 剛



大町市社会福祉協議会(社協)の会長を務めさせていただいている奥村です。

大町市老人クラブ連合会の皆様には、日ごろから社協に對しまして、格別のご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。

### 一、大町市社協の歴史的概要

当社協は昭和二十九年七月、市制施行と共に発足し、昭和三十七年九月に社会福祉法人の認可を受けました。早速翌年には南原町の元大町授産所を無償で払い下げていただき、大町助産院を開院しました。全国で初めてのケースだったそうですが「お宅が狭い・産婦の支援者がいない・経済的に困難」等の方が安心して、安い経費で出産できる施設がほしいとの要望に応えたものであり、昭和四十八年の閉院までの十二年間に約二千名を超えるお子さんが産声を上げました。

また、社地区に保育園がなかったため、

昭和四十年に社保育園を開園しました。同四十八年度に、市に移管して「第七保育園」となりました。

その後、老人福祉センターの建設、奉仕活動センター(現ボランティアセンター)の開設、小口資金の貸付制度、家事協力員制度を立ち上げました。

### 二、社協の今日的な役割と任務

時代の変遷に伴い、時々の地域の社会福祉のニーズによって社協の役割も多角的になり、専門的になってきています。

現在は市総合福祉センター、(大町・八坂・美麻)の指定管理、日常生活自立支援、小地域ネットワーク活動、訪問介護、居宅介護支援、訪問入浴等の各種事業、またボランティアセンター、多機能型障害福祉サービス(すずらん・たんぽぽ・ひまわりの家)、大北圏域障害者総合支援センター・障がい者地域福祉センター・デイサービスひなたぼっこ・こすもす・みさか・みあさの運営を行っています。

このように、今日的な社会福祉事業の運営は多岐にわたりますが今後、市民の皆様一人一人の福祉に貢献しようと努力を重ねて参ります。

三、市民参加の具体的運営  
これらの事業活動を展開していく中で、自治会など地域の皆さんや福祉・保健・医療の関係者、ボランティア団体、行政機関との連携は欠くことができません。

社協には、会社という取締役会に当たる「理事会」がありそれぞれの分野や団体の代表の方々が就任しています。また、審議機関として評議員会があり、予算や事業の内容にかかわって理事会の提案議題を審議決定しています。ちなみに、老連では理事として内川会長、評議員として仁科副会長さんに就任していただいております。

### 四、社協の使命

社協の大きな特徴は、行政とのパートナーシップにより、地域の中にある様々な生活課題に対して、住民の方々の参加協力を得ながら支援に取り組んでいくことです。年齢や障がいの有無にかかわらず、その人らしい安心して生活を送ることができるよう生活環境が実現できるように生活支援活動を強化して参りたいと考えています。今後とも皆様のご支援とご協力をお願いいたします。市老連の益々のご発展をお祈りいたします。

# 第五十六回長野県老人クラブ大会

― 伸ばそう！健康寿命！担おう！地域づくりを ―

## 一、はじめに

表記の県大会は去る十月十五日に、蔵の街、須坂市文化会館にて開催された。

大町市からは正副会長ほか、理事、新しく単位クラブ長になられた方、また、栄えある県表彰を受けられた方々(別掲)を含めて二十三名の参加者であった。

少し早めに到着したので指定された座席もまとめてとることができた。参加者の総勢はおよそ八百人だということだった。

## 二、開会セレモニーなど

開会前三分、須坂市すみさか民謡会方々による珍しい「津軽三味線」で東北民謡が披露された。

午後一時、物故会員への黙とうに始まり、県理事の仁科幸千代氏による「老人憲章」の朗読、続いて「老人クラブの歌」の斉唱があった。

主催者を代表して県老連会長池上弘祥氏のあいさつがあった。要旨は「長野県の高齢者人口は3割を越えていることはご存じの通り。健康であつて地域づくりに積極的に参画することが求められている。会員の増員運動は先輩

方から受け継いでいるが、会員数はピーク時の4割と減少している。昨年度から会員百万人増員活動を展開している。県老連では今後五年間で二万名の会員増加を目指している。自信と誇りを持つて計画の推進にまい進して参りたい。」

また、地元老連会長は加えて、須坂市の概要や蔵の街須坂のアピールがなされた。

## 三、県表彰者表彰

これまでの老人クラブの育成等に貢献

された皆さんの表彰があり、大町市老連では次の単位クラブ・個人の方々が表彰を受けた。(敬称略)

☆全国老人クラブ連合会長表彰

百万人増強運動特別賞

・堀六日町シニア百寿会

☆育成成功劣者(老連活動に貢献)

・堀田博文 ・西澤源巳

・小山繁夫 ・坂井義幸

・大厩眞一 ・高橋 功

☆優良老人クラブ

・青貝老人クラブ

・石原スマイルクラブ

## 四、会員発表

佐久老連荻原徳雄氏による「老後をどう生きるか」と題して、子供たちとの協働の手段として酪農クラブを立ち上げ、麦栽培、菜種づくりなど悲喜こもごもの体験をし、麦踏みや必要要件などについて学び合っている。じゃがいもは収穫後のひと時を使って蒸かして食するなどの農業体験を継続している。玉ねぎは一つの茎に数個出来ると思っている若い母親や先生もおられる現実がある。

当然のことながら正しく教えないと立派な子供は育たない。作る育てる体験こそが一番の教育ではないか。そんな活動の中で自立たない二年生の男児は、次のような俳句を発表した。

「菜の花の海にひばりが落ちていく」

自分たちが育てた菜の花畑の上空を鳴きながら飛んでいたヒバリが安全を確かめるとヒナのもとに落ちるように消える様子を詠んだもので、体験した子どもだけが感じ取れる情感豊かな句である。さらに深く広く共同活動の推進を図りたい。

## 五、講演の概要

「人生九十年時代に期待される高齢者の生き方」と題してフリージャーナリストの内山二郎氏の講演があった。概要のみ記します。平均寿命がどんどん延びている。特に長野県は日本一だ。だが、まだ引きこもる方や孤立している高齢者が多い。

県では、新五ヶ年計画として、「しあわせ信州創造プラン」を立ち上げている。それを推進するコーディネーター、ボランティア活動は昔からあったのだ。「結(ゆい)」、男同士の茶飲み、もらい風呂などなどだ。

神城断層地震で死者を一人も出さなかった事実は地域のつながりが緻密にできていることの証明である。地域の担い手として、自分に良し、仲間にも良しの社会実現のために、自助、共助、公助の発想に加えて、今一つ近所(近助)の精神が必要ではないか。隣近所の方々と日常的なつながりこそ今日の要請である。

(記 西沢理事)



## 百歳 賀寿者

老人週間の九月十八日に今年度百歳を迎えられた、下一百寿会の南塚與一(よいち)さんが通所している「銀松苑」デイサービスセンターを内川連合会長、栗林下一百寿会会長が訪問して、センターの交流スペースにおいて通所者二十六名がいる中、長野県老人クラブ連合会及び大町市老人クラブ連合会より百歳賀寿の品々が送られました。

南塚與一さんは、大正四年一月一日福井県で長男として生まれ、小学校を卒業とともに大町市に移り住み、昭和電工大町工場に定年までお勤めになりました。

五年位前から、週三回デイサービスに通っているとのことであり、時にはショートステイで宿泊することもあるそうです。

伝達式では、式台の前まで、シルバークーを押ししてきましたがかくしやくたる態度で歩いてくれました。また、聞き取ることも、話すことも不自由なくとても百歳とは思えませんでした。これには驚いたところがあります。

長生きの秘訣を聞いてみると、食べ

るものには好き嫌がなく、若い時から酒は飲まなかつたのがよかったのではないかとおっしゃいました。

南塚與一さんの益々のご健勝と長寿をご祈念申し上げます。



## 加入促進活動推進について

老人クラブ会員の減少は、長野県と言わず全国的な傾向であり、しかも近年の会員減少傾向はことさらに顕著です。長野県内では年間六千人近くの会員減少です。

高齢者が全人口の三割を越える時

代になり、今後益々高齢者の増加が見込まれる中、老人福祉法で厚く保護されている高齢者のクラブ組織である老人クラブが衰微の一途をたどることは私も会員の看過できることではありません。

◎ 去る九月二十八日、塩尻市において中南信ブロックの会長が参集して、各連合会の実情や課題について討論がなされました。

ここでは、討論の中から参考に資したいと思われる内容の概要をお伝えし、会員各位のお知恵を借りたいと思います。

### ① 休・解散クラブの復活を

一人二人の会員の加入に努力を惜しんではないが、百名近くの会員を抱える単位クラブが休会してしまう事はどうしても避けなければならぬ。復活への道筋としては本部役員の行政や社協に働きかける努力はもちろんのこと、各単位クラブにあっては、日常的に、機会あるごとに自治会へ理解を求め助力を求めていくことが大事だ。

また、故あつて会員になっていない、クラブが休会してしまった等々の理由

で運動・文化活動等々に参加できない方々をお誘いしてはどうか。そのことが将来的に会員増につながるのではないかと。

### ② 名称の改名などを考えよう。

何歳になつても「老人アレルギー」を克服できない方が多いことは残念な事実である。

「〇〇老人クラブ」は老人福祉法に基づき法律用語であり、地区の単位クラブにあつては、どのような「愛称」をつけてもいいのである。

各地区には民生委員が配置されています。委員の職務の大方は老人福祉に関わつて私どものお世話の任に当たつています。その方々が老人クラブに入会され、地区クラブを陰に陽にお支え、助言をいただけるようになりたいものである。

### ③ 老人を支える日本

戦中戦後を身を粉にして働き続けてきた私どもは万年青年である。今日でも社会に貢献出来る幸せを生き甲斐として自信を保持しつつ、組織の一員として手を携えて邁進して参りたい。

(記 内川会長)

# 第41回大町市老人クラブ体育祭

第四十一回大町市老人クラブ体育祭は、十月二十一日運動公園総合体育館において七チーム約五百人が参加して盛大に開催されました。各チームとも優勝を狙って熱の入った競技が展開され、今大会では接戦を制した八坂チームが昨年のリベンジを果たし優勝。内川会長から優勝旗を授与されました。



選手宣誓 青木社チーム保体部長



入場行進



ペットボトル釣り



おおまち健康体操



ボール入れ



入賞順位



カンガルー競争



応援風景



ボールころがしリレー



嬉しい入賞商品授与



ベタンク競争



あわてずしんちょうにリレー



的中マレット



老連健康踊り



ラッキーレース



茶わん引きレース

なお、常盤チームと平チームは同点ですが、体育祭採点規則により各競技の上位得点の多いほうが優勝となります。

大会結果	( ) 内総合得点
優勝	八坂チーム (65)
準優勝	常盤チーム (44)
第三位	平チーム (44)
第四位	社チーム (43)
第五位	大町Bチーム (39)



八坂チームに優勝旗授与



がっちり貯めましょう

# 文化祭作品展

11月1日～3日

大町市文化祭は、大町会場をはじめ社・八坂・美麻・平会場の各地域でそれぞれの日程で開催されました。市老連の会場は、文化会館で十一月一日～三日までの三日間開催され、昨年より多い百五十一一点の作品が展示されました。連日数百名を超える大勢の市民の方々が鑑賞にこられました。

なお、本年度市老連展示会場に出品された方々は次のとおりです。

(順不同、敬称略)

## ◎文化祭作品出品者

吉原ヤヨヒ(水墨画)・伊藤まさえ(絵手紙)・山崎孝子(絵手紙)・志賀みな子(籠)・今溝康之(紙工作)・降旗令(日本画)・高野ヒデ(書道)・山崎武子(手芸)・西山かほ里(書道)・上條隆子(水墨画)・栗林ヒロ子(書道)・伊藤敏子(編物)・上條喜代子(書道)・鷺澤徳司(写真)・廣瀬清子(手芸)・佐藤文佐枝(手芸)・小林登美子(刺し子)・伊藤悦子(折紙)・平林きよ子(編物)・縣みえ子(鉛筆画)・宮田町睦会(手芸)・白澤雅江(手芸)・高橋茂子(水墨画)・戸澤茂子(押し花)・宇留賀千里(編物)・中村時子(水墨画)・大塚愛子(手芸)・

栗林幸雄(俳句)・小林頼子(水墨画)・両川太士(わら工芸)・小林仁(書道)・中村秀子(水墨画)・小林茂子(水墨画)・内川三郎(年賀版画集)・竹村いく子(短歌集)・中島節子(手芸)・佐々木好子(手芸)・平出法子(水墨画)・小西一子(水墨画他)・金刺節子(ペーパークラフト)・傳刀喜久恵(ちぎり絵)・細田すみ子(和紙絵)・西澤嘉夫(写真)・金原義子(パッチワーク)・仁科千鶴子(イス)・佐藤貞子(手芸)・館ノ内百寿会(六角イス)・青木正義(プランター)・徳竹幸子(六角イス)・小林正子(焼物)・伊藤三江子(俳句)

## ◎和紙絵教室

丸山南海子室長 他五名

## ◎編み物教室

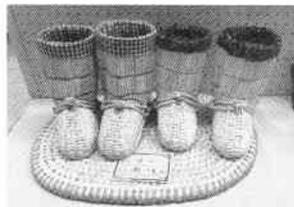
郷津あつ子室長 他二名

## ◎短歌教室

松下岩恵室長 他二十二名

\*作品出品者、会場展示・片付け役員、作品管理当番などご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

また、来年度も多くの皆さんからの出品をお待ちしております。



老連だより

## 九十号特集 1

## 戦後70年の想い

下一百寿会 宮田久夫

私はもうすぐ九十歳になりますが、まだ元気で農業にいそしんでいます。この度、記念号に寄稿してほしいという依頼がありましたので、少年飛行兵として命をお国にさし上げて訓練と実戦に命を懸けた年からもう七十年余が過ぎた今日、「ああ特幹小僧」と題し三百ページの拙書を紐解きながらその一端を紹介し、責任を果たしたいと考えました。

一、空にあこがれ、十七歳で親の反対を押し切って第一期陸軍特別幹部候補生として入隊し、熊谷陸軍飛行学校で血のにじむ特訓を受けて戦地に赴く。時に昭和十九年操縦訓練を受けた私を含む少年飛行兵は、無防備に等しい船団で仏印へ向かう。そして戦地に着くまでに洋上で多くの操縦者を国のために尽くすことができないまま失った。私は何か月後かに来るだろう敗戦も知らず勝利を信じて訓練に励んだ特別幹部候補生の生き残りである。私ど

もの出撃時は、攻撃どころか押し寄せる戦局に対し、国中が防衛に懸命の時であり、多数の陸海軍の特別攻撃隊が沖繩へび立って散華していった。そして明日は我が身。戦陣訓に「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪禍の汚名を残すこと勿れ」と教えられてはいたが、戦うに武器なく、食なく、水もなく、加えて科学性に乏しい軍隊でどのような勝算があったのか。敵を知り、己を知らぬ戦いであった。

二、二十年八月十七日、スマトラ島ビレウィン基地から特攻中止の命令が下ったが情報通信の不備により、敗戦を知ったのは一か月後の事である。間もなく、米・英・オランダの連合軍が戦車隊で乗込んできた。武装解除がなされ、生き残りの私たちはいくつかの収容所に押し込まれた。「生きて虜囚の辱めを受け」ることになってしまったのである。収容所での労役は筆舌に尽くせない苦しみではあったが、食にありつけたことは不幸中の幸いであつた。中でもインド兵は優しい方が多く、こっそり食料を届けてくれたり、何かにつけ味方してくれたりした。「昨日の敵は今日の友」、何とか労苦に耐えた。そして昭和二十二年二月に復員が許可された。残って残務に就く中隊

長は「一刻も早く故国に帰り、日本の再建に尽くされたし・・・くれぐれも軽率妄動を禁ず・・・」と訓示された。タンジョン港より乗船し、一週間後に竹島港に着いた。そして内地の人に。戦友と涙の別れを交わしてそれぞれ懐かしの故郷に向かう。

三、やつと我が家にたどり着いた。夕飯時だったので家族は膳に就いていたが、私の陰膳が据えられているではないか。有り難くて泣けた。ようやく常盤人に戻った私には「青年団」「消防団」の活動が待っていた。また、陸上競技では北海道国体で入賞する事も出来た。中隊長殿の訓話が思い出された。「俺も何かしなくては」の思いが強くなり現大町高に入学した。四つも五つも年下の同級生と一緒に、英語に力を入れて猛勉強して卒業した。昭和二十七年春であった。その後復興してきた日本にも民間機が飛ぶようになってきたので、再び空を駆け巡りたくなり二年間の航空学校の講習の後、操縦免許証を獲得した。少年飛行兵時代の経験が生かされていたと思われまふ。そして、いくつかの航空会社で双発の大型飛行機のパイロットとして定年まで勤務することができた。日本各地の空を操縦桿を握りながら、今強く感じているこ

とは、私自身の人生の半分は「雲の上」の人だったという事です。過ぎし日々を回想しながら拙文を閉じさせていただきます。

## 九十号特集 2

## 毎晩「餅つき」をしたころ

お願いを受けて、これから戦後の恥ずかしい一家の話を書くので匿名でお願いします。わしは今年喜寿を迎えて「敬老会」に呼ばれた。いつそんな年を取ったのかと驚いている。昭和二十一年四月、わしは「国民学校」に入学した。今日は「餅つき」について話したい。当時は「餅をつく」ことは特別の日にはしかできないことであつた。なお、餅と言っても粉餅であり、今日の餅とは別物のようであつたがごちそうであつた。毎日麦飯とみそ汁、漬物だけの食事をしていたわしには嬉しいことであり、朝から腹を減らして待っていたものだ。ところがここでいう「餅つき」とは食べる餅の事ではない。それは、シラミやノミの巣になつている肌着(継ぎのあるネルのものが多かつた)をせいろに詰めて蒸かして退治した悲しい実話である。特にシラミは縫い目に隠れていて夜になる

ともぞもぞ動いて血を吸う毒虫だ。たまには指の爪でブッチンとつぶすこともあったが、そんなことで退治出来る数ではなかった。ノミのように「あつ、かゆい」ではなく、いつの間にか大事な血を吸うのだ。白いシラミは血を吸うと腹が黒くなっていた。当時担任の先生だった女学校上がりの女先生は「しらみに食われている子は肌ががさついています」と言われた言葉が今でも耳に焼き付いている。記憶はあやふやであるが、その頃女の子たちは頭に白い粉をつけ、頭にたかったシラミを駆除していたのだという事を後で知った。何年かして学校で「海神藻」（この漢字は間違いか）とかいう臭くて飲みにくい虫下しを飲まされた。当時は肥料の多くは人糞を使っていたので、回虫をたからせる人が多かったのである。翌日学校の便所の入り口あたり便より先に白いミミズのような回虫がひり出されていたのを見て子供ながらに肌が凍りついた事を思い出す。

話かわって、今度は「脱脂粉乳」の話だ。飢え死にしそうなわしらにユニセフから大きなドラム缶のような容器に入っている脱脂粉乳を各学校に配給していただいた。粉乳はお湯に溶かしミルクとして飲ませてもらったのであ

る。口当たりが良かったのがぶりと飲むと一時間も経過しないうちにひどい下痢となった。「少しずつ口に入れて三十回よく噛んで飲めや」と指導された。聞けばそのミルクは家畜の餌だったそうだ。前後して味噌汁だけの給食も開始されたが、二十年代前半のわしらの生活はとてつもなくひどいものだった。当時、今日のような極楽生活は夢想だにできなかった。有り難い時代である。つらいことのみ書いて済まなく思っている。

(匿名希望)



昭和21年の夏 一年疎開児童6人

### 大町市老人クラブ連合会 秋の研修旅行に参加して

理事 縣みえ子

十一月十二日、老連秋の日帰り研修旅行は新潟県長岡市にある小高い丘に昔どなたかお金持ちの方の別荘であつたという有名なみじ園の散策でした。当日は朝七時に出発。大型観光バスは市内の各所を回り一路長岡へ。三十一名の参加者でしたので、当初はちよつとさびしいなと感じましたが、バスの中では、朝からお酒をいただく方も多く、大変賑やかになりました。車中では、お互いに八十年近く歩んできた波乱万丈の人生をはじめ、ユーモラスなお話も出て、皆さん和気あいあいの時を過ごさせていただきました。毎回のことながら、老連の研修旅行は楽しいものであり、新しいお友達が出来たり、お互いの絆を深め合う貴重な機会です。皆さん是非お誘い合つて次回からもご参加ください。内川会長も車中のお話の中で「益々超高齢化社会を迎えるにあたって老連の組織の良さを理解され、引きこもり、孤立化を防ぎ一日でも長い健康寿命を延ばすためにも会員を増やす努力を重ねなければならぬ」と言われました。快適



なハイウェイを走っているうちにバスは目的地に到着です。このみじ園は大地主高橋家個人の所有地だそうです。見晴らしがよくもみじはやや峠を越してはいましたが赤が七色に輝き、落ち葉を踏む音も気持ち良いものでした。お待ちかねの海鮮昼食の時間となりました。エビ・カニを含め近海でとれた新鮮なお刺身弁当を心行くまで頂戴することができました。お土産に魚介類を箱いっぱい買い込む方も多かったです。当日のおしまいに「恋人岬」という景勝地を見学し、記念写真を撮っていたら帰路の車中の人となりました。良い研修旅行でした。

スポーツ大会の結果



第71回 ゲートボール大会(9月4日)

優勝	借馬百寿会	4勝0敗(59)
準優勝	仁科郷若草会	4勝0敗(29)
三位	下一百寿会	3勝1敗(26)
四位	宮本健康会	3勝1敗(8)
五位	栄町栄寿会	3勝2敗(3)

\* ( ) 内数字は内得失点差

第41回 マレットゴルフ大会(10月1日)

男子	優勝	青木 亮佐(64)	神栄町	北コース
	準優勝	松倉 秀男(59)	神栄町	南コース
	三位	矢野口信司(66)	高見町	北コース
		清水 澄雄(65)	宮本	南コース
		唐沢 隆道(69)	神栄町	北コース
		老野 起(67)	泉	南コース

女子	優勝	山崎 孝子(67)	神栄町	北コース	
	準優勝	海川 清子(62)	北原町	南コース	
		武井 千春(70)	個人会員	北コース	
		平林 幸子(67)	南原町	南コース	
		三 位	羽賀 作子(71)	南原町	北コース
			竹村いく子(67)	上	南コース

ホーリンワン賞

- ・高橋かず子(須沼)・松倉秀男(神栄町)
- ・傳刀 竹洋(借馬)・太田竹次(宮本)
- ・太田 正(北原町)

特別賞

- 喜寿賞(77)・小林元子(北原町)
- ・竹森善造(借馬)
- 米寿賞(88)・伊藤甚式(清水)

\* ( ) 内数字はスコア

飛び賞

- 北コース スコア(70) 武井 千春(個人会員)
- 南コース スコア(70) 宮沢 悦子(個人会員)
- スコア(80) 大塚 由男(栄町)
- スコア(90) 平林ちおり(野口)

事務局日誌

27年8月~12月

- 8月4日 ノルディックウォーク⑧(19名参加)
- 5日 第2回理事会・単位クラブ会長会 市役所
- 18日 わら工芸部「すげ刈り」 居谷里湿原
- 20日 保健体育部長会 市役所
- 22日 大町市青少年育成市民大会 仁科副会長・縣理事 サン・アルプス大町
- 22日 平地区敬老会 鷲澤副会長 平公民館
- 9月4日 県老連 広報部会 鷲澤副会長 長野市
- 4日 第71回ゲートボール大会(95名参加)陸上競技場
- 9日 県老連先進(優良)クラブ交流事業 仁科副会長・降旗縣理事 安曇野市
- 10日 ゆうあい高齢者のつどい下見
- 17日 市老連だより90号編集委員会 市役所
- 18日 美麻地区敬老会 仁科副会長 ぼかぼかランド美麻
- 21日 大町地区敬老会 内川会長 文化会館
- 28日 会員増強運動市老連代表者会議 内川会長・仁科副会長 塩尻市
- 29日 八坂地区敬老会 内川会長 明日香荘
- 29日 ノルディックウォーク⑨(20名参加) 運動公園
- 10月1日 第41回マレットゴルフ大会(127名参加) 運動公園マレットゴルフ場
- 1日 信濃大町アテストイン・レジデンス設立総会 内川会長 市役所
- 1日 県老連 理事・部長会 仁科副会長 長野市
- 5日 八坂支部ゲートボール大会 内川会長 野平ゲートボール場
- 5日 関東ブロック連絡会議 仁科副会長 栃木県
- 6日 文化祭出展者会議 事務局 サン・アルプス大町
- 6日 体育祭用具点検 坂井部長・事務局

- 8日 ゆうあい高齢者の集い(169名参加) 仁科副会長 小諸懐古園
- 9日 市民ふれあい広場準備 事務局 文化会館
- 10日 市民ふれあい広場 文化会館
- 13日 ノルディックウォーク⑩(20名参加) 青木湖一周
- 15日 第56回長野県老人クラブ大会(24名参加) 須坂市メソナホール
- 16日 悪質商法等被害防止講演会 市役所
- 20日 体育祭準備(80名参加) 総合体育館
- 20日 大町地区「人権を考える市民の集い」仁科台中学校
- 21日 第41回大町市老人体育祭(500名参加)総合体育館
- 27日 ノルディックウォーク⑪(25名参加)
- 27日 シルバーダンスクラブ発表会 公民館分室
- 29日 中間会計監査 市役所
- 31日 文化祭会場づくり及び搬入 文化会館
- 11月1日~3日 大町市文化祭(83名150点出展) 文化会館
- 12日 秋の研修旅行(31名参加) 新潟県長岡市
- 12日 県老連女性委員会 仁科副会長 長野市
- 17日 大町市戦没者慰霊祭 内川会長 公民館分室
- 19~20日 全老連女性リーダーセミナー 仁科副会長 公民館分室
- 25日 わら工芸講習会(1期)12月9日迄 消防団詰所
- 27~28日 女性部研修会(22名参加) デイサービスみさか他
- 12月9日 門松寄贈 大町市役所玄関設置
- 10日 県老連市町村老連会長・事務局長会議 塩尻市
- 16日 第3回理事会・単位クラブ会長会 市役所
- 17日 くるみ保育園3世代交流 わら工芸部
- 24日 施設訪問(社協他5ヶ所) 正副会長・事務局

編集後記

越冬に備えて秋野菜を収穫した。雪降りの中での野沢菜の収穫は雪国ながらも大変である。

翌日は急いで冬タイヤ交換の仕事をしなれば。冬が来たのだ。

今号は大町市社協会長の奥村剛様から、社協の成り立ちや機能、助産院の開設の歴史、将来への使命などについて執筆頂きました。

また、九十号特集としてお二人の方から貴重な戦争体験、ノミや虱がたかり、痩せこけた戦後の一人の少年が脱粉乳で命をつないだ自身史の一部を紹介していただきました。私ども会員諸兄弟も合似た体験をしてきたのです。

夏以降、老連では体育祭、スポーツ大会、文化祭、研修旅行等々、会員各位の積極的な協力によって盛会のうちに終了することができました。

さて、いよいよ今年も残すところわずかになり、寒さも日増しに厳しくなります。健康寿命を延ばすためにも、こたつで丸くならず、掃除に精を出したり、地域の諸行事に進んで参加しましょう。そして清々しい新年をお迎えくださいますよう祈ります。

(編集委員長 西沢幸治)